

衛生動物だより

No.051

京都でみることができる蚊(1) キンパラナガハシカ

世界には約 2,500 種類の蚊がいて、日本にはその内の約 100 種類がいます。その半分かりの種類が生き物の血を吸うと言われています。

蚊は、どの種類も同じところに生息しているのではありません。幼虫はボウフラといって、水中で暮らし水面で呼吸しています。この水も広い、狭い、きれい、汚れているのが好みと、種類によって異なるのです。

近年、市内で非常によくみるのは、比較的狭い水域を好むアカイエカと非常に狭い水域を好むヒトスジシマカです。

1970 年頃までは、広い水域を好み日本脳炎を媒介するコガタアカイエカや、マラリアを媒介するシナハマダラカが水田で多く発生していましたが、水田の減少とともに今ではほんのわずかしき市内では見られなくなっています。

1962 年に調査された京都市内に生息する蚊の資料がありました。内容は、水田、墓地、竹林、山間には多くの種類の蚊がいて、その中でも水田では 19 種類もの蚊が見つかっていました。それでは、今の京都ではどのくらいの種類をみることができるのでしょうか。興味はありませんか？

わたしたちは周辺の竹林に行き、切り落とされた竹株の溜まり水に発生するボウフラや竹林周辺の溜まり水に発生するボウフラを採集し、成虫に羽化させて種類を調べました。その一種類が今回紹介するキンパラナガハシカという蚊です。この蚊はナミカ族ナガハシカ属の蚊です。ナミカ族には他にアカイエカ、コガタアカイエカが属するイエカ属やヒトスジシマカが属するヤブカ属などがあります。

ナガハシカという名前から少し想像できるかもしれませんが、長い部分があります。それは、吻（フン）という口にあたる部分が他の蚊より長く、長いハシ（クチバシ）であるということから名づけられています。またキンパラとは、おなか非常にきれいな金色に装飾されていることからです。

しかしきれいな見かけによらず、このキンパラナガハシカは人の血を吸いますし、そのボウフラは、体中に剛毛が生えて毛深いという特徴があります。

竹林で血を吸う蚊に出会った場合、よく見てください。白黒のヤブカ（ヒトスジシマカ）ではなく、きれいなキンパラナガハシカかもしれません。



ボウフラの抜け殻（キンパラナガハシカ）



ボウフラ（ヒトスジシマカ）



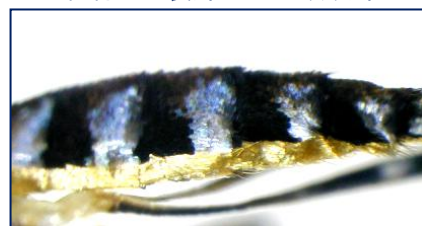
ボウフラを採集した竹林



キンパラナガハシカ



瑠璃色に装飾された頭頂部



金色に装飾された腹部



銀色斑が 2 個ある脚



R2 室 > R2+3 脈（これも特徴です）